（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4791000021		
法人名	社会福祉法人憲寿会		
事業所名	グループホームかねぐすく		
所在地	沖縄県糸満市字兼城８７１番地１		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 13 日	評価結果市町村受理日	平成25年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4791000021-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目１０－２５　１Ｆ
訪問調査日	平成25年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームは敷地が広く、遠くに与座岳、集落を見渡す。見晴らしの最高な場所に位置する。兼城ハイツ自治会に入り地域の代表として、運営推進委員に加わってもらい活発な会議開催となっています。更に地域の福祉施設職員とのスポーツ大会親睦会、行政が主催するパネル展にも積極的に参加を行いました。今年もハイツ祭りには大勢で出かけ交流が図られた。階下のデイサービス、母体施設との合同行事など季節に即した活動、作品づくり等にも取り組みました。開所して2年、ようやく室内にも温かい雰囲気が感じられるようになりました。今後も職員の研修、各種勉強会への参加により利用者、家族様より安心と信頼を目標に職員一丸となって努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

①ホーム内の共有空間及び個室のスペースが広くとられ、トイレの配置や浴室・脱衣室の床材等高齢者のプライバシーや安全に配慮した作りとなっている。②利用者の馴染みの場所を訪ねるふるさと訪問や利用者の要望に応じた外食等外出支援の取り組みを積極的に行っている。③職員の希望により外部研修等に参加できるような体制が確保されている。また関連する資格取得に向けた支援も行い職員の資質向上に力を入れている。④市町村担当職員と普段から連携を図りお互いの責務を果たし共に地域密着型サービスの向上に向けた協力関係が築かれている。⑤入居者の安全・安心に配慮しながら職員が確実に休憩が取れるよう夜間は2人体制を取っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

確定日：平成25年10月17日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境、個性を大事にしながら、施設の理念を目標に、利用者、家族様との関わりを持つようにしています。	開設時に、地域密着型サービスの意義をふまえ事業所独自に作成した理念をフロアに掲示し、職員間で共有している。理念に基づき、家庭的な環境作りと利用者一人ひとりの個性を尊重したケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社協主催による職員交流会や兼城ハイツ祭り、糸満ハーレー見学、納涼祭り、母体施設でのゲートボール大会等、地域行事に出来る限り参加をするようにしています。	開設当初から自治会に加入し、地域の清掃活動や利用者と一緒に納涼祭り等に参加している。また自治会長が運営推進委員となり、事業所から自治会の行事に積極的に参加できるよう連携が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協傾聴ボランティア受け入れ、見学、入居の相談等、必要な支援に繋いでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議開催。推進委員の皆様との情報交換において、多くの意見や助言等を集めている。	利用者及び家族、さらに市町村職員参加のもと2か月毎に定期的に会議が開催されている。利用者状況や研修参加等報告・連絡事項が中心となっており、委員からの意見を受けた協議内容が少ない。またヒヤリハットや介護事故に関する報告は行われていない。	今後は利用者及び家族からの相談苦情事例やヒヤリハット・介護事故事例を報告することにより、各委員から積極的な意見が提起されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当者への状況報告や市主催する老人週間パネル展への出品、広報誌においての事業所紹介なども行っている。	市町村職員とは普段から密に文書や電話等で情報交換している。市町村からは研修案内や制度に関する情報提供以外に広報紙に事業所案内を掲載してもらう等お互い協力関係が築かれている。事業所からは市のイベントへ利用者と共同で製作した作品を出展している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関には施錠はせず、帰宅欲求のある方は常に声かけ見守りの対応。転倒事故防止の為、センサーや明かり感知器で対応しています。	事業所内に身体拘束禁止宣言が掲示されているが、この1年間研修や勉強会は行われていない。夜間帯を除き昼間はいつでも利用者や家族が出入りできるよう鍵を開けている。家族に対して契約時に身体拘束について説明しているが詳細なリスクまでは伝えていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症の理解、研修等の受講により知識を習得し利用者に寄り添ったケアに心がけるようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいませんが、研修等への参加により知識と研鑽に努めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族様に不安感や誤解を招かないよう、利用料の説明、サービスに関すること、緊急時の対応などについて同意を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが殆ど利用がなく、来訪時や自宅へ利用料請求書、書類を届ける際に近況報告を行い、意見や要望等を聞くようにしています。	利用者からは日頃の関わりの中で意見を聞いている。面会時や自宅へ訪問した時に家族から要望や意見を聞いている。利用者の日常の様子が分かるファイルを準備し、家族が面会に来られた時にはそれを閲覧してもらっている。これまで家族から積極的な苦情等は聞かれない。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、主任会議、グループホーム会議を通して情報共有、意見等の機会としている。	階下のデイサービスと月１回合同の職員会議が行われている。職員からの意見は会議から提案されることが多く、これまで職員の要望を受けてパート職員の増加につながった。職員が希望する研修には参加できる仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善点などを提供する機会を設け、又、資格取得に関する給与体制などの考慮がなされており、職員自身が働きがいのある職場環境に努めています。一方、有給休暇が取りにくいのも現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修や各種勉強会などの参加を希望することができ、多くの研修の機会に恵まれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会で開催する研修会など、社協が主催するスポーツ大会、親睦会参加により交流を行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることへの不安、表現や行動にも気づかい、利用者の良き理解者として傾聴し共感できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して介護をゆだねられるように、又、気がねなく意見や要望が言い易い雰囲気、言葉かけに配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が必要としている事に気づかない事がある場合は、正しい助言を行いつつ必要な支援に繋げられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物に出かけたり、おやつ作りや食後の片づけ洗い物を行ったりしています。作品づくりも楽しんでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者やご家族様と関係を密にしながら、時には架け橋となり、共に支え合える支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問を行い、馴染みの場所に出かけたり、趣味としていた民謡や三味線を楽しんでいる。いつでも弾けるように身近に置いている。	事前に利用者の馴染みの場所を把握し、一人づつ2か月に1回ふるさと訪問を実施している。若いころから三味線を得意としていた利用者が活躍できる場所に職員と一緒に出かけている。階下のデイサービスを利用している幼なじみとの交流も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会やおやつ会、余暇活動時には一人ひとりの個性を大事にしながら、孤立感にならないよう利用者同士の交流の機会もつくるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移行、退居になった後も経過については常に状態把握による訪問を行い、状況を見守っています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	祭りやドライブ、外出支援など、個性を大事にしながら、その人らしい思い、生活の支援に努めています。	自分から意思を伝えることが難しい利用者には身振り等でその意図を把握している。自分から希望を伝えることが出来る方には、一人一人の役割を担っている場面を介して意見を出してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人が訪ねて来た時には、会話の中から生活歴や本人の趣味など情報収集を行い今後の生活支援に繋がるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の健康管理や心身機能の状態、生活の様子を日誌や個人ケース記録表にて把握できるようにしています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時は本人、家族、職員担当者会議を開催し、介護計画書の作成を行っている。変化時の評価、見直しが十分でない為、ニーズを把握し、介護計画書に反映できるようにする。	更新時期及び状態変化が見られた時には随時介護計画の見直しを行っている。担当者会議には看護師や居室担当職員も参加し家族等に気になる点等を情報提供している。本人の希望に沿った外出の機会は提供されているが、地域でその人らしく暮らし続けるための具体的な介護計画は作成されていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース記録表、申し送り等で状況を共有できるようにしています。一部、記録の漏れがあったり、ケアの統一がされていないことがあるので留意。計画書に反映できるように努めていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望により、階下のデイサービスで一時、体操や交流、行事等の関わりが増え、意欲の向上に繋がっていると感じる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、支援について前向きに考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれのかかりつけ医を持っており、受診時には本人の心身の状態や生活状況について情報提供を行っています。	入居前からのかかりつけ医を継続し、受診時は、家族との同行や代行を支援し、口頭で情報提供している。家族対応の場合は、バイタル表を渡し、受診後は結果報告を受けている。必要に応じ、担当医と電話で相談や確認する等、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な観察、看護記録、緊急時における医療機関への必要な紹介や助言等を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院療養が必要になった時には、必ずメッセージを添えた花を持ってお見舞いに伺うようにしています。本人や家族に不安がないよう、医療スタッフとの連携にも努めるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合は、ご家族様と話し合いの機会を持ち、意向により母体施設の紹介や介護老人保健施設、必要な施設の紹介支援を行っています。	重度化や終末期に向けては、対応指針が策定され、入居時に家族に説明し、「事前確認書」で意向を把握している。現状では、介護保険施設等への移行を支援しているが、終末期ケアに向けた職員教育や支援体制作りに取り組みたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置。勉強会行いました。急務であること踏まえ、全職員が対応できるようにしていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、スプリンクラー、消防用通報装置が設置。防火避難訓練の実施。地域協力体制には至っていない為、兼城ハイツ自治会、住民との確認中です。	年2回、消防署立ち会いの消防訓練と夜間想定の自主訓練が実施されている。各種災害対応マニュアルやスプリンクラー等の防災設備を整備し点検も実施されている。地域との協力体制については現在、自治会と交渉中で、備蓄も課題である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、個人の尊重、尊厳のある対応に心がけること。自身に置き換えて考えることを指導していますが、間違った対応や言葉づかいが所々見られる。	契約書に「利用者の権利」を明示し、法人内外の研修で、接遇や個人情報等について学び、職員の意識向上や周知に努めている。管理者は、利用者を年長者として敬い、職員の言葉遣いが気になる時は、「理念に立ち返るよう」注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎週木曜日には選択メニューを取り入れた方法がある。新聞や折り込みチラシにより、一緒に買い物に出かけたりする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	沖縄芝居、三味線、歌会など、個人の趣味が活かせるよう、自由な時間を過ごすことができます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には、気に入った服選びやこだわりの化粧品などを使い分ける方もいます。自分なりに充実していると思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体調理室より提供。配膳、下膳、食器洗いは2名の利用者と一緒に行うことが多い。食事は利用者と職員一緒のテーブルで会話を楽しみながら食事している。	食事は、三食とも法人の配食を利用している。利用者は、テーブル拭きや食器洗い等に参加している。差し入れの野菜等で、食事に和え物等を足したり、ジュースやおやつ作りを実施している。食事は、利用者と職員の全員で摂り、焼肉等の外食も楽しんでいる。	食事を提供するだけでなく、利用者の「食」を通した様々な取り組みに繋げるよう、事業所での食事作り(朝食からでも)に取り組んで行く事に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で確認。お茶や水分を嫌がる利用者様には好みの物を提供し、少しでも食事や水分量が確保できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事口腔ケアは欠かせません。声かけ、準備の必要な方、すでに習慣が身に付いている方もいます。夜間は洗浄剤につけておきます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に記録表により管理、排泄パターンの把握を行い、日中はトイレ誘導の実施。夜間はポータブルトイレの支援を行っている。	水分補給や排泄チェック表から、利用者の排泄パターンを把握し、日中は全員、誘導しトイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブルトイレの使用やパット交換で対応しているが、居室内での排泄を拒む利用者には、居室をトイレの近くに配置して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体管理栄養士の食事献立、水分量の確保、日中の活動支援により便秘解消が出来るようにしていますが、薬の効果に頼るのも現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	病院受診や外出のタイミングを見ながら、入浴が楽しめたり、散髪後に入浴をする方さまざまです。介助の必要な方は一日おきの入浴になります。	入浴は、一日置きを基本としているが、毎日や外出前等の希望に沿って、柔軟に対応している。また希望者には、併設事業所での入浴や冬場の浴槽使用等、入浴を楽しめるよう支援している。異性介助を拒否する利用者には対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の窓にはカーテン、クーラーによる室温完備、電動式ベッドの設置。誰にも気兼ねなく安心してゆったり過ごせるようになっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を参考に飲み方や副作用の内容を確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割表を作成し、趣味や楽しみが持てるように、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	手工芸材料や雑貨類の買い物に出かけたり映画を見たり、カラオケ、外食に出かけることもある。気分転換が図られるようにしています。	利用者は、日常的にベランダや庭に出て外気浴を楽しみ、周辺の散歩や併設事業所に出かけている。初詣やハーリー等の年間行事や映画、カラオケ、ドライブ等、随時に外出し気分転換を図っている。個別には、故郷訪問や美容室利用等の外出を支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様より金銭に関わる相談があった時には、ご家族へ連絡し、必要物品の購入をお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外にいる家族より暑中見舞いの品が届いた時には御礼の電話をかけ、本人との会話の時間をつくります。傍らにいて見守っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、リビングは利用者と職員がゆったり過ごせる広さを確保。室内には季節感が漂う作品の装飾など、温かな空間づくりに工夫している。	共用空間は、広々として活動し易く、ゆったりと寛げる居間や多目的に活用できる畳間を備えている。フロアは、季節の飾りが施され、天窓や排煙口を設置し、採光や換気にも配慮している。また浴室や洗面所は、滑りにくい床材を使用する等工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングでは利用者同士が談笑したり、テレビ、ビデオ観賞される。他、室内には畳間や相談室が設けられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自宅から持ってきて使用される利用者は一部。ベッドやタンス、洗面台の設置があるので満足はしているようである。居室の壁に家族の写真や作品は少しづつ飾られるようになった。	居室には、ベッド、タンス、洗面台等が備え付けられている。職員は、利用者の馴染みの品の持ち込みを勧め、家族写真や利用者の作品等の飾りつけを支援している。ドアはきちんと閉め、透明のガラス部分をステンドシールで隠す等、プライバシーにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室やトイレには手摺りの設置。バリアフリーの室内である。利用者が解りやすいように表示や目印を付けている。日めくりカレンダー、壁掛け時計により確認できるようにしています。		